

癖がつきました。朝が来て、さあ今日はスケジュールどおりに頑張らなくてはと、自分に言い聞かせ、はりきって勤務するのですが、なかなか思うように仕事が進まず明日へ持ち越すことがささいです。

社協での私の仕事は住民福祉サービスはもとよりお茶くみから会計迄、多種多様です。振返って見ますと二十年前私の町の独居老人は十数名、現在では百二十余名と言った変動。言う迄もなく高齢化社会、ヘルパーさんは増員されても他の職員の増員はなく、以前の仕事を追っていた時代から現在は仕事から追われる時代になってしまい、時々これでいいのだろうかと思配する事があります。

何しろ事務員兼活動専門員と言った名ばかりの専門員で充分な活動もできない事を大変心苦しく思っている今日この頃です。

「お母さん大好き」

新宮町社協
吉田 美枝

朝いつものように出勤しようとしたら「カギがない!!」最初のうちはどこかに置き違えたかな? くらいの調子で探していた私も、刻々と時間がたつにつれ、ゴミ箱をあさったり、絨毯をはがしてみたりと必死で探しつづけ、「ああ、もう遅刻」と思った矢先、カギは引き出しのなかの彼女の小さなバッグのなかから見つかった。

彼女とは、私の2歳になるかわいい一人娘である。父親そっくりの顔を持ち、絶対似てほしくなかったペチャ鼻と体型はそっくりそのまま私に似てしまった。そのせいか、よく男の子と間違えられる。以前母に「もう少し女の子らしい顔に生

まれてくれれば良かったのに」と愚痴ったとき「確かにかわい顔とは言えないけど、愛嬌のある顔じゃない」とぜんぜん慰めにもならない事を言われた憶えがある。

そんな彼女も、生後4ヶ月から保育園に行っているせいか色々なことを憶えてきて、よく私たちを笑わさせてくれる。

最初の頃は預ける度に私の方が、涙していたものだが、最近では同じクラスのなかでも先輩風をふかし、自分より小さい子のお世話を得意になってやっているらしい。元気に保育園に行ってくれるおかげで、私はこうして安心して仕事ができるのである。

「仕事と育児大変でしょう?」とよく言われるが、私の場合近くに母がいるおかげでずいぶん助かっている。この母が無類の子供好きで、私もかわいがってくれたがそれ以上に孫はかわいらしく、よく面倒を見てくれる。彼女が生まれた

とき、母が彼女ばかりかわいがるので一人っ子の私は(今考えると変なのだが)正直ヤキモチを焼いたものである。

しかし、彼女がだんだん大きくなるにつれ、私も大好きな母のよう、仕事を続けながら、大きな愛情で育てていきたいなと思う。

彼女が大人になり「お母さんが一番大好き」と、言ってもらえるよう仕事と育児にがんばらなくっちゃと考える今日この頃です。

**福岡県専門員
連絡会の皆さんへ**

関西
コミュニティワーカー協会
会長 矢島 満夫

波の中に社協も翻弄されつつあるように思えます。こんな時こそ、実践レベルから地域福祉のあり方を点検し、草の根からの住民福祉活動を推進していくことが、社協にとって、いや住民にとって必要なのです。

日々の地域実践によって構築されるコミュニティワーク本来のあり方の確立をめざして、私達関西の社協職員の有志は、今年1月に「関西コミュニティワーカー協会」を結成しましたが、福岡県専門員連絡会のみなさんをはじめ、全国の仲間とともに全国組織づくりも進めていきたいと考えています。

今後とも連携を持ちながら、共に歩んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。



「心ときめかない」 私たちへ

社協職員全国組織化の動向を受けて

福岡県専門員連絡会役員会

本年 1 月 16 日、社協職員
の全国組織化をめざして、
関西の社協職員有志が「関
西社協コミュニティワーカ
ー協会」を発足させました。

この協会の設立経過と趣
旨については、全国社協職
員をつどい（設立総会）に
福岡県専門員連絡会より派
遣した八女市社協中野孝人
氏、筑後市社協中山陽一氏
から、自主研修会や総会の
折に報告させていただきま
した。

会員の皆さんは、この全
国組織化の動向をどう受け
とめられたのでしょうか。
関西社協コミュニティワ
ーカー協会の前身である「全
国組織化を進める関西社協

職員会」の結成総会（1
993・6・27）には、多
くの方々から励ましのメッ
セージが寄せられています
が、その中に「私たち社協
職員が私たちでありつづけ
るための最初の一步がおよ
いよ関西から踏みだされた
んだなど、心ときめく思い
です。……」という言葉が
ありました。

「心ときめく私たち」と
報告を聞かれた会員の多
くの方は、木枯し文字郎
の顔になってあつたようで
す。距離は、いつたいど
こにあるのでしょうか。

協会の発足を陰で支えら
れた学識者を始めとする

方々のメッセージを引用し
つつ、この点についての課
題を提起してみたいと思っ
ます。一緒に考えてみてく
ださい。

まず、住民による「老人
保健福祉計画」づくりを進
める枚方市民連絡協議会代
表委員の山崎寛氏のメッセ
ージを引用します。

今、闘うことなしには、
社会福祉の前進は勿論、
現状を守ることすら出来
ません。「高齢者保健福祉
推進十か年戦略」も、止
めさすことは出来なかつ
たとはいえ、労働者、市
民が全国規模で消費税反

対闘争を闘った戦果の一
つです。今、全国の市町
村で、住民の手で「老人
保健福祉計画」を作る運
動が展開されているのも、
消費税反対闘争を闘った
労働者・市民が老人保健
福祉計画を自らが闘いと
つたものと自覚している
からだと思えます。

「全国組織化を進める
関西社協職員会」が結
成に至るまでに話し合わ
れてきたことを読みまし
ていただくと、それはすべ
て、社協活動の路線を守
るため、そして更に前進
させるためには、市町村
段階で、そして全国規模
で、社協職員が組織され
ることが、社協職員の当
面の要求であることを訴
えています。

このときに、「全国組織
化を進める社協職員会」
が結成されることは、
社協活動の正しい路線を
守り発展させるうえから
も、そのために必要な労
働者階級の社会保障運動

と連帯するうえからも、
もつとも情勢にかなつた
ことと心から敬意を表す
ると共に、結成総会の成
功を心から喜びたいと思
います。

このメッセージには、会
の結成が、時宜にかなつた
重要な一歩である。具体的
な意味が明示されています。
一つは社会福祉をめぐる現
状認識、もう一つは社協職
員組織の役割期待に関し
てのものです。

私たちは、今、闘うこと
となしに、社会福祉の前進
は勿論、現状を守ることす
らできない」という現状認
識を持つていてでしょうか。
そして、社協活動の正しい
路線を守り発展させるもの、
労働者階級の社会保障運動
と連帯するためのもの」と

して社協職員組織、なかん
ずく専門員連絡会を意
識し、位置づけているのが
問われています。
医療・年金・生活保護を
めぐる動向をみると、社

会保障・社会福祉を守り発展させる勢力は、明らかに情勢負けを強いられていきます。社会問題のつぼのよな地域を多く抱える福岡県こそ、事態は深刻なのではないでしょうか。

社会保障・社会福祉を守り発展させる牙城として、独り福岡県とその市町村（行政も社協も住民も含めて）が踏んばっているという評価は、どこからも聞かえてきません。

つぎに、日本福祉大学教授の沢田清方氏のメッセージを引用します。

私のゼミなどで、「浪人をしてでも、社協に就職したい」という学生が現れたりすると、「それはすごい。どんな社協でもいいから、入って頑張つて欲しい」と思うよりは、

「いい社協に当たつてくれればよいが」と複雑な気持ちになるところが正直な今日この頃です。全国どこへ行つても、社

協マン・ウーマンの疲れた顔にお目にかかりますし、昨日までバリバリやっていた（ように見えた）社協職員が、突然辞めたというニュースにもたまにおつかつたりするからです。

社協の存在の主体性が薄れ、行政の受け皿としての、或いは、行政機構の一翼としての「在宅福祉サービスマン事業団」化の拡がりをひしひしと感じますと共に、社協の命であるコミュニケーション・オーガニゼーション・ワークさえも、行政の手のひらの中の「天下りCOワーク」化しつつあるように見えますし、中には、COワークのCの字も見られない社協も少なくないように思えます。

社協マン・ウーマンが、どのセクシオンに従事しているにせよ、地域福祉の基本理念の具現化という大テーマを、日々の忙しさの中でも見失わずに

いけるためには、共通の目標に対する相互確認の場が必要なのはいままでもないことと思います。

関西社協の仲間たちが、そのための旗を掲げるにあたって「がんばれ」「がんばれ」と言いたいと共に、事態をクールに見極めてゆくりズナブルな視点を一人ひとりを持つための拠り所・発信基地となつて欲しいと心から期待いたします。

このメッセージには、社協をめぐる状況認識と危機感が明示されています。私たちは、行政の受け皿として、あるいは行政機構の一翼としての「在宅福祉サービスマン事業団化」の趨勢を、社協存在の主体性の危機」として痛感しているのでしょうか。そして、私たちの社協職員組織、なかんずく専門員連絡会は、コミュニケーション・オーガニゼーション・ワークが社協の命であることをどれだけ意識的に

捉え、事態をクールに見極めてゆくりズナブルな視点を一人ひとりを持つための拠り所、発信基地”たり得ているのかが問われています。

社協のあり方や方向性をめぐる基本的な問題、そしてこれに呼応した職員組織のありようを考えていくについで、示唆に富む内容のメッセージが、前述のもの以外にも数多く寄せられています。が、誌面の都合で紹介できません。

さまざまなメッセージに目を通していくと、「心ときめく私たち」と「心ときめかない私たち」の距離は、どうやら、①社会福祉をめぐる現状認識、②社協をめぐる状況認識と路線、③社協職員組織への役割期待に係る捉え方の差異から生じていることがわかってきます。

関西社協コミュニケーション・カード協会の発足は、私たちの福岡県専門員連絡会にとつて、果たして、他人事

なのででしょうか。最後に、お二方のメッセージを引用し、専門員連絡会役員会からの課題提起を終えたいと思います。

関西社協職員会の結成おめでとう。社協の底力は、「住民主体」の理念に徹するところから湧き出てくることを信ずる。

施策の押しつけに屈服せず、当事者を巻き込み、関係者を巻き込んで、地域福祉の増進をはかる推進力としての自己にめざめる活動を、皆さんに期待します。ガンバツてください。

（元明治学院大学教授 重田信一）
そして、

初心忘るべからず。
（老残孤舟翁 岡村重夫）



福岡県専門員連絡会会員名簿

平成6年7月31日現在

No.	市町村名	氏名	No.	市町村名	氏名	No.	市町村名	氏名
1	久留米市	松尾 誠治郎	32	久山町	阿部 利治	63	大木町	黒田 紀子
2	大牟田市	内田 勉	33	福岡町	志水 秀則	64	三潞町	広重 千代子
3	直方市	高石 伸人	34	津屋崎町	石田 裕	65	瀬高町	武藤 和典
4	飯塚市	門田 幹弘	35	玄海町	牧 雅仁	66	大和町	平田 啓子
5	田川市	西村 勝也	36	芦屋町	安部 知彦	67	三橋町	津留 雅秀
6	柳川市	高橋 晃治	37	水巻町	藤田 昌俊	68	山川町	小山 千恵子
7	山田市	山見 嘉昭	38	岡垣町	山中 周平	69	高田町	青木 裕子
8	甘木市	前田 正剛	39	遠賀町	三根 伸高	70	黒木町	久保 秀史
9	八女市	中野 孝人	40	小竹町	吉野 史章	71	上陽町	中村 修
10	筑後市	中山 陽一	41	鞍手郡	古野 巧	72	立花町	中村 哲也
11	大川市	永田 啓造	42	宮田町	森 静之	73	広川町	青山 忍
12	行橋町	福谷 治生	43	若宮町	鈴木 幸則	74	矢部村	栗原 三鶴
13	中間市	高橋 博紀	44	桂川町	古野 夏子	75	星野村	梶原 重成
14	豊前市	襖田 修身	45	稲築町	木山 淳一	76	香春町	鬼岳 要
15	筑紫野市	宮田 義明	46	碓井町	内田 文人	77	添田町	阿志賀 光利
16	春日市	欽先 和彦	47	嘉穂町	山口 君寛	78	金田町	植高 節生
17	大野城市	岡部 則彦	48	筑穂町	入江 美千代	79	糸田町	津城 卓志
18	小郡市	中島 輝光	49	潁田町	有吉 隆	80	川崎町	千住 節子
19	宗像市	内野 英雄	50	穂波町	井上 英晴	81	赤池町	中野 雅浩
20	太宰府市	緒方 徹	51	庄内町	野見山 正範	82	赤村	呉橋 雅裕
21	前原市	水崎 浩幸	52	杷木町	塚本 朋子	83	大任町	西藤 輝雄
22	那珂川町	坂井 由紀子	53	小石原村	和田 博	84	方城町	田丸 義雅
23	二丈町	肥田 剛	54	朝倉町	江藤 善行	85	苅田町	福山 直樹
24	志摩町	藤田 マリ子	55	三輪町	川波 トミエ	86	犀川町	内田 知史
25	宇美町	佐々木 文江	56	夜須町	行武 豊子	87	勝山町	中村 道夫
26	篠栗町	飯島 勝吉	57	吉井町	田村 吉彦	88	豊津町	奥村 剣市
27	志免町	佐々木 信哉	58	田主丸町	小田 あや子	89	椎田町	鞘野 希昭
28	須恵町	岐部 健一	59	浮羽町	松岡 次弘	90	吉富町	友田 秀一
29	新宮町	吉田 美枝	60	北野町	野瀬 光治	91	築城町	佐々木 真司
30	古賀町	渡 政喜	61	大刀洗町	村山 真知子	92	新吉富村	沼野 淑子
31	粕屋町	白石 英治	62	城島町	高三潞 泉	93	大平村	宮崎 亨

新人紹介

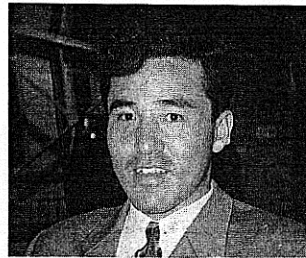
明日
花咲け



春日市社協 鍛先 和彦

○経験年数 一年未満
 ○特技・趣味 バイク（お金も人生もかけてます。）
 ○セールスポイント 別になし。
 ○仕事への抱負 「熱い心と冷たい頭」を持ってがんばりたい。

○メッセージ
 社会生活上の福祉の浸透と拡散という時代の流れのなかで、福祉専門従事者としていかにして経験と理論を融合させ実践するか。色々勉強させていただきたいのでよろしくお願い致します。



須恵町社協 岐部 健一

○経験年数 一年三ヶ月
 ○特技・趣味 野球と水泳とカラオケ
 ○セールスポイント お年寄りと子供と異性が大好きな29歳です。
 ○仕事への抱負 福祉は、人を相手として人が行うサービスなので、その人を尊重して、いい人間関係を図っていききたいと考えています。

○メッセージ
 以前、養護学校、老人保健施設の指導員をしていましたが、昨年四月より、社協職員として頑張っています。
 その人を否定せずに受け入れる事を常に頭に置き前向きに努力していききたいと思えます。
 皆さんよろしくお願い致します。



粕屋町社協 白石 英治

○経験年数 一年半
 ○特技・趣味 車が好きで将来は、ロードス・スーパースポーツなどをこころがしいと思っています。（ムリやろうねえ）。
 休日（火曜日休み）、朝から晩までパチンコ三

味！（そのネバリを仕事にいかせれば……）
 ○セールスポイント 今はナシ（昔も）
 ○今後の抱負

平成四年の十月からこの仕事に就き、事務局のオバさん達（失礼）に尻叩かれながら瞬く間に一年と六ヶ月が過ぎました。粕屋町では、現在六十五歳以上の割合が他町に比べ、まだ低い方ですが、近い将来のことを考え「地域福祉」について試行錯誤していききたいと思えます。
 まだまだ無力ですが、粕屋町社協共々よろしくお願致します。



田主丸町社協 小田あや子

○経験年数 八ヶ月

○特技・趣味 人様に自慢、公表できる特技、趣味はなし。暇さえあれば、ただ、ただ、怠惰、惰眠を貪ることが唯一の楽しみ。

○自己紹介・仕事への抱負 「新人紹介」、このことはなぜか気になる。「老人福祉センター利用有資格者新人」ならばともかく、「福祉活動専門員のニューフェイス」として。あー抵抗を感じる。（年齢は写真よりご想像下さい）。専業主婦業を辞め、社協に足を踏み入れて四年。今だに「私、何をしているのかしら？」と疑問符の毎日。思考力と記憶力と行動力とさらに体力の衰えを痛切に感じながら、それでも「高齢者の気持ちちは若い者より分かっちゃうよ」と負け惜しみに近い確信を持って、日々頑張っています。どうぞよろしくお願いたします。



小石原村社協 和田 博

○経験年数 0年

○特技・趣味

スポーツ全般・バイク

○セールスポイント

地元の青年団副団長をやっているの、村の行事はもろろのこと、県青年団主催の様々な行事にも仲間団員と共に参加し、交流の輪を広げるよう努めています。

○仕事への抱負

今年4月に法人化されたばかりの社協でもあるし、僕自身も福祉に関してはまったくの素人ですので、研修会等に参加し勉強しながら、少しでも早く住民の方々の役に立てるように頑張っていきたいと思っています。

○メッセージ

最近、バイクの免許を取ったので、ツーリング等をやっている方がいたら、声でもかけて下さい。



糸田町社協 津城 卓志

○経験年数 14ヶ月

○特技・趣味

特技↓なんでもやってみること。

趣味↓へたの横好き

○セールスポイント

元バリバリの直販セールスマン……?!
人と同じ事をするのがきらい。

○典型的なO型!

○仕事への抱負

自分のキャラクターを前に出す仕事をしたい。「強調と協同」を合言葉に、行政と社協の役割を十分

に生かす活動を進めたい。

○メッセージ

本会は、平成5年4月1日に法人化されました。事務局員すべて(二人)が、新規採用組です。あたたかい心で見守って下さい。



大任町社協 西藤 輝雄

○年齢 昨年三月定年退職

○経験年数 一年三ヶ月

○自己紹介

ここにいたって、新人とはですネー……

役場に在職中約二十四年間福祉関係課に在籍、退職後直ちに社協に就職、

五月から県社協での社会福祉主事資格認定講習会

に五十数日参加、六十の手習をさせていただく。

○私の取り柄

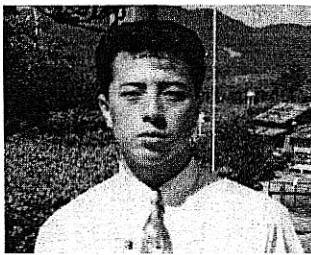
別ありませんが短気(これは短所)です。だがとてもやさしんだそうです。

○希望と抱負

いつまでも私一人の社協でなく、早く体質強化を願って、みんなで「いまなぜ地域福祉か」など議論しながら、地域のニーズに適した社協活動に取り組んで行きたい。

○メッセージ

ご老体といわれたこともありませんが、まだまだ気持は若く持っています。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。



方城町社協 田丸 義雅

○年齢 二十六歳

○経験年数 数ヶ月

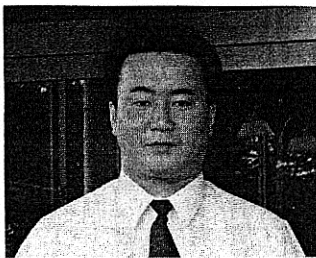
○セールスポイント

決して手抜きはしないが、

仕事こなしがはやい。

○これからの抱負

私は、以前福祉施設に勤務してまして、ちがった分野での福祉の仕事に関心をもち、社協の職員になりました。毎日が慌ただしく過ぎてゆき、何とか「初心を忘れるな!」を肝に銘じながら、仕事に追い回されながらも、まわりの方々の力をお借りして頑張っています。これからも、自分の勉強不足をフォローしながら、専門員として、はやく一人前になれるよう努力していこうと思います。



吉富町社協 友田 秀一

○経験年数 二年数ヶ月

○趣味

旅行をするのが好きで、

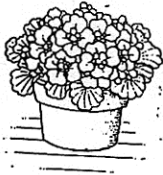
年に何度か出かけます。

○セールスポイント

別にナシ

○抱負

仕事として社会福祉事業に携ってより種々学ぶことも多く改めて福祉という仕事がいかに大切なものであるかを痛感させられています。又、今まで私の心の中で漠然とした社会福祉を、身近なものとして感じ、受けとめることが出来た事に感激しております。



岡垣町社協 山中 周平

○年齢 29 歳

○経験年数 3 カ月

○自己紹介

身長 179 センチ、体重 100+? キロの少し大きめな私ですが、現在、目標 2 桁にダイエット中です。趣味は、ドライブが好きで目的地を決めずによく放浪の旅に出ています。

○今後の抱負

今まで老人関係の施設で 7 年間勤めてきましたが、在宅福祉の仕事をやりたいと思いい社協に転職致しました。まだ、分からない事も多く、仕事に追われる毎日

ですが、これまでの経験を生かし、頑張っていきたいと思えます。他社協の皆様方にいろいろとご迷惑をかける事もあると思いますが、今後とも御指導よろしくお願い致します。

フリーク



PART II

"眠りすぎた私"

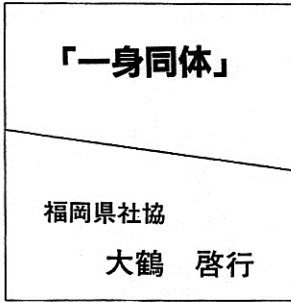
福岡県社協

西村 敬子

小さい頃、絵本でよく読んで物語だが、眠れる森の美女のオーロラ姫は糸車の針に刺されていばらの中で眠る。また、白雪姫は毒リンゴを食べさせられて眠る。そうこうしているうちに、王子様など現われて目を覚ますという誰もが知っている「眠りもの話」なのです

さて、眠りと言えば高校の授業でよくやった居眠りであるが、これで恥ずかしい思いをしたことがある。朝礼で校長先生の長話中、立ったまま寝てしまいコトツと倒れ、貧血と間違われタンカで保健室まで運ばれた。また、怖い思いをしたこともある。結構最近の話であるが夜、車を運転していた時、赤信号で一番先頭で信号停車してなぜか寝ていた。ハンドルは両手でそのまま握っていたが、足はペダルから離れていた。

が寝ている間に全て「カタ」がついてナイスな結果だけが待っているというこのラクチンな展開に物語だと分かっていつつも懂れていたのはやはり私が小さな頃からそうとうな「なまけ者」だったからでしょうか。また、幼稚園児の頃、子供カラー図鑑をめくっていた「眠り病」というものを発見した時も何か強いイン



この時ばかりはミッション車でよかったと後でつくづく思ったのだが…。気が付いた時は青信号で後ろからどんだん私の車をよけて追いついていた。もしかしてこの青信号は何回変わった青信号だろうと思うとぞつとした。ちなみに以来、車は運転してません。でません。

人間は人生の1/3眠っているらしいが、81歳まで生きるとすると27年間眠っていることになる。こんなことを考えると、何も予定のない休日などを只、眠いというだけで12時間以上も寝てしまうのだけはやめようと心に誓いつつも、朝の目覚ましの音が恨めしい今日の頃である。

一心同体(二つ以上の心が一つになる)という言葉があるが体が一つになれば一身同体とでもいうのでしようか。

私はあるきっかけで「車イス」と数日を共に過ごすことになった。当然車イスを利用されている方との数日だが私にとって「車イス」との奮闘だったと思えるのであえて「車イスと私」にした。

体験コーナーで健全な人が車イスに乗れば失礼なことにつっこやおもしろい乗り物になってしまふ。又、健全な人が乗る車イスを介助する場合も笑いながら楽しく出来るものです。しかし、本当に介助する場合はこうはいかない。体験コーナーの平らかな道は何処にも見当らず、わざと設ける障害物は命に関わる障害物に変貌してしまう。最近では何処に行ってもスロープが無い、手摺りが欲しい、点字ブロックがどうのこうの、エレベーターのボタンが：

など、社協の職員として素晴らしいことを言っている「流石福祉関係者の言うことは違うね」といつぱいほめてくれます。???

体験コーナーを越え日常の生活を共にすれば「車イス」の日常に触れる。わがままと思えた「車イス」と奮闘を繰り返すうちに私の方も「とことん付き合うぞ」と開き直ってしまいました。しかし、日がたつにつれ「車イスと私」の生活パターンが一緒になってしまい、お腹が減るのも咽喉が乾くのも、おまけにトイレに行きたくないのも同じとき、とまでいかなないもの何んとなく分かってしまふ。いつの間にか私は「車イス」のエンジンとして一体化している気分になった。正直に思えばどうやら私は、介助にあたり「与える者と与えられる者」の意識をもっていたようだ。だが、エンジンになれたことで「一身同体」という言葉を勝手に手につくり自己満足をしている。

これからは、理論や形にこだわらぬ介助ではなくガソリンのいらぬないノーマルエンジンを目指したいと思ったりもしている。

まなこ
編集物語

編集委員は、原稿の依頼に始まりお礼に終わる。頭を下げるばかり…。また、委員会では、原稿の山で出張してまで、事務所と同じ状態になってしまふ。反面、落ち着くようであるが、今日一日でやってしまわなければいけないと思うとうつとうしい。しかし、委員長を中心に、みんなの力を結集し、無事「第三十六号まなこ」が誕生した。

今、私は社会福祉の評論家になった気がする。しかし、明日になれば、いつもの「ツヨシノ」すっかりしなさい」になってしまふ。

編集後記

編集委員長
田川市社協
西村 勝也

社協職員全国組織化の中に、「心ときめかない私たち」という言葉がある。

正直いつてこの言葉には、心臓が止まる思いを感じている。社協マンとして、地域の中に飛び込み、ニーズ発見とその問題解決にどれだけ汗しただろうか(私ごとですが)。このことについて自己採点すると、青葉に塩状態になってしまふ。「心ときめかない私たち」この言葉は、私たち専門員に投げかけられた重要な問いかけのように思えてならない。

最後に、まなこ36号発行にあたり公務御多忙中、原稿を寄せていただいた皆様方に、厚く御礼申し上げます。